



Title	語文 第8輯 編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1953, 8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68426
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編 輯 後 記

「語文」も三年目の春を迎へて、ここに第八輯を世に送ることとなつた。

一党一派に偏せず、大阪における国文学研究發表誌として、ささやかながらも、ゆるぎない地歩をしめて來たといへよう。

多難深憂の時はいつ果てるとも知れない。時の幸さはそのまま、この国の文学への真摯なる探究に、拍車をかけるものでなければならぬ。人間文化の華は待たるべきものではなくて、直擧不斷のつかひの中にこそ期せらるべきだ。風雪の中の高嶺の岩かけにも、千古の花の紅は、日日ひめられ、いとなまれてゐる。時の風雪のただ中にこそ、眞の探究の「春」は萌え出でてあるべきものであらう。

時、すでに浅春。会员読者諸賢の御多幸を祈るとともに、研究のみのりのよき投稿を歓迎する。

今回は、横山正・田中裕・三上章・榎克朗四氏の着実異色ある研究とともに、林和比古氏に書評を頗はし、小島吉雄博士より

は「浪華日記行」の解説及び翻刻をいただ

いて、編輯した。「浪華日記行」は福松原助の筆、安永九年頃の大坂淨瑠璃劇團の消息を知る好資料であつて、斯界に裨益するところも多いことであらう。頁数の都合で

分載することにした。

立ちかへる春のいぶきとともに、「語文」もまた、一層の成長と飛躍をとげねばならぬ。大方の御支援を期する次第である。

なほ、印刷所輻湊のため、本号の發行は予定より遅れ、講読者各位に御迷惑をかけたが次号には遅刊を取戻したい。(犬養)

□ 投稿規定 □

- 直接購読者は投稿することができます。
- 原稿の内容は国語・国文学・国語教育に関するものであること。分量は四百詰原稿用紙二十枚以内とする。
- 原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
- 原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
- 採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。
- 一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

❖雑誌の寄贈・交換について

- 雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原大阪大学文学部国文学研究室宛に願いたい。
- 購読希望者は發行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい)

❖購読について

- 購読希望者は發行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい)
- 購入御希望の方は本誌編輯室へお申込下さればお取次します。

一部 四十円 送料 八円

- 一年分(四回分)百六十円(送料共)
- 五冊以上一括購読の時は一割引の上、送料は不要とする。

¥ 40

発行所 大阪市南区横堀7丁目19 邦進社 振替大阪123135番 話場199
編著者 大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部国文学研究室 代表 小島吉雄